

研修医通信

Vol.86

2018年1月号

三重大学医学部附属病院初期研修医二年目の前澤貴と申します。一ヶ月間本当にお世話になりました。色々ご迷惑をおかけしましたが、皆様に助けていただき、無事に研修を終了することができました。今回、一ヶ月でどういう生活を送ったかを報告させていただきたいと思

います。まず一月に研修に来ていた研修医の先生は、私含めて五人でした。三重大学医学部附属病院から間瀬陽子先生、杉岡直弥先生、東京大学医学部附属病院から山口美保先生、新宮医療センターから大澤恒介先生です。

初日に紀南病院のスタッフの方々に歓迎会を開いて頂きました。楽しいひと時だったのですが、私飲み過ぎてしまい、後半ずっと寝ていました。大澤先生に意識レベルを確認していただいたところ、JCS300であったそうです。

研修についてですが、私は指導医が増田考祐先生で、本当に素晴らしい先生でした。一人一人の診察・アセスメントが丁寧であり、自分の実力不足を痛切に感じた一ヶ月でもありました。病棟管理だけでなく、外来、内視鏡、救急診療もこなされながら、私の教育の時間を作って頂きました。知識だけでなく、医療に向き合う姿勢も教育して頂き、知識、技術、人間性含めて、医療人として涵養していただいたことは本当に幸せでした。

一月の初めての週末に研修医五人で新宮に鯨を食べに行きました。五人とも予定が空いていて、食事にいく機会というのはよく考えるとかなり奇跡的な事のような気がしますね。三重や和歌山出身の先生方は鯨を食べた経験があったのですが、東京の山口先生は初めてだったそうです、喜ばれていましたね。

消防署実習等も行かせて頂きました。そこでは、現在

の救急体制がどのように成立したか、どのような指令を受けるか、一ヶ月でどのくらい救急要請を受けるかを勉強させていただきました。救急要請する人達の中には、本当にパニックになり、どこに救急車を派遣すれば良いかすら、分からなくなる場合もあると言われました。病院内にいるだけでは現場での大変さも実感できないため本当に貴重な経験であったと思います。

今回紀南病院にきて感じたことが、心肺停止の患者様が搬送時に心拍が再開している頻度が高いことです。病院内スタッフだけでなく、救命士の方々の意識の高さにも舌を巻きました。

担当患者様の中には脳梗塞や認知症等でコミュニケーションが難しい方が何人いらっしゃいました。そのような患者様から症状や問題点の情報を収集することは非常に難しく、高齢者に対する医療の難しさを感じていました。しかし、患者様の状態が改善していく様子を見ると本当に喜ばしく思いましたし、さらに勉強するモチベーションも上がりました。紀南病院でお教えたいただいた、医療や患者様に向き合う姿勢を忘れず、医療に携わりたいと思います。

上級医の増田先生はじめ、多くの先生や看護師さん、検査室の方々、事務の清水さんや西さん、関わってくださった全ての紀南病院のスタッフの皆様、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



『前田』にてクジラや海鮮や天ぷらを。皆、美味しいご飯に笑顔がこぼれます。

さて。私、大澤の前では普段ゲラゲラ笑っている前澤くんが書き上げたとは思えない立派な文章を仕上げたため、私も文章を書かないといけなくなりました。何を書こうかと考えましたが、まずは何故に新宮医療センターの研修医がここに来たのかから始めていきたいと思っています。

三木先生が院長の時に初期研修医として入ってから面倒見の良い三木先生は毎月、研修医との時間を設けてくださり、その中で研修プランを決めていたのですが、現行プランにある地域医療の研修先がどれも魅力的ではなかったのです。行きたくない事を伝え診療所より病院がいい旨を伝えたところ、紀南病院を研修先として提示して下さりました。はじめのイメージは、新宮医療センターに心筋梗塞やくも膜下出血は搬送してくる病院といった程度で、なんてイメージが無かったのですが、喜んでお願いすることにしました。

年明けの一月四日、ついに地域研修開始です。前日の夕方に紀南病院官舎に来た時に思ったことは、「なんて綺麗な夕陽なんだろう」翌日からの研修も何となくうまくいくんじゃないかと思わせてくれるくらい綺麗な景色でした。

研修はこの2人と共にはじまりました。自分以外に笑顔が特徴的な三重大研修の前澤くん、若干アヒル口のイメージが素敵で結構イケイケの東大の山口さん。今まで和歌山県内のいくつかの病院で研修し出会った研修医とも別な感じでしたが、2人共はじめから知り合いだったのでは？と思うような親近感がありました。他にも杉岡くん、間瀬さんと最強の五人です。

研修自体は野村先生のもとではじまりました。野村先生は、とてもいい先生でした。他の研修医に謝りたい。野村先生とってしまつて、すみません。何が良かったのか？僕の為になるかどうかを考えて、どの患者をもつかどうか判断してくれていたこと、患者の事を調べるにあり必要な情報を与えて頂けたのもそうですが、何よりも「いかにして情報へ速くたどり着けるか」の方法について具体的にご教授いただけましたこと。今後に活かせるような気がします。とりあえず、野村先生に少しでも近づきたいと取り敢えず、ブラウザ(Firefox)のお気に入りの

医療サイトを整理しました。ガイドラインの少し新しい読方も教えてもらい、進む分野は野村先生と異なる腎臓内科ですが今後も先生の教えは強く残りそうです。

紀南病院に来て、診療所研修もいかせていただきました。神島では往診に自動車なんて不要で、徒歩です。全周で4km程度の神島は人がいるのは漁港側の島の一部のみなので可能なんです。小泉先生、専門分野は『神島』だそうです。地域に従事するのは、こういう事。地域に敬意を払うとはこういう事と感じました。(酒好きとしてゲーター祭りの復活を願います)

ところで、私は新宮医療センターの研修医です。二つの病院で勤務した事のある医師は少ないと思います。先日、当院から新宮医療センターに急性心不全(急性心筋梗塞が契機になった可能性)を搬送した後に、PCI適応なく二日後に舞い戻ってきました。これを聞くと「新宮医療センターはなんて冷たい病院なんだ」と思う方もいるでしょう。私も自分が救急で受け持った患者さんで、少しは思いました。ただ、私は医療センターの先生方を知っています。循環器の先生方を見渡しても、やる気がない人なんて誰一人おりません。

逆も然りです。今まではよく搬送されてくる印象でしたが、今では紀南病院の先生は、殆どこの病院で対応してくれていると思っています。この病院に来て先生方の担当患者数の多さに驚愕しました。二〇人超えは当然で三〇人超えも。先生方を含む医療者のキャパシティの大きさに依存しきつており、マンパワーの絶対数不足は否めませんが、その中でも私ら研修医に教育的に、指導的に接して下さったのは本当に感謝するところです。野村先生をはじめ、お世話になった先生方！本当にありがとうございました。そして地域医療で近隣の近宮・紀南の両方から地域を見る事ができたのは本当に有意義な事でした。

最後に、謝らなければいけません。紀南病院の間瀬・山口・杉岡ファンの皆様へ。一ヶ月で終る前澤・大澤の二人で研修医通信を埋めてしまいました。三人の新聞は次回となります。あ、杉岡くんが三重大まで搬送に帰ってきたことに乾杯！お疲れ様でした！